



集落支援だより vol. 39



柱島本島には大きく分けて3つの集落があります



〈柱島港〉



〈来見集落〉



〈牧集落〉



〈松田集落〉

柱島本島には大きく分けて3つの集落があります。 **【来見集落・牧集落・松田集落】**

その中で最も世帯数が多いのが「^{くるみ}来見集落」です。現在、40世帯以上の方々が暮らしています。来見集落は定期船の発着場にもなっており、岩国市柱島出張所をはじめ、郵便局・農協・漁協組合といった事業体や3つの商店と数件の旅館が存在します。

この来見の由来は、昔、柱島水軍という集団があったころ、敵軍の船を来るのを見て見張りを行っていたのがこの地だったようです。つまり「来」るのを「見」ていたのが、この集落の由来であるとのこと。

そして高台に位置する「牧集落」と海沿いにある「松田集落」を含めた3つの集落によって、島のコミュニティが形成されています。

【極めて珍しい植物】ハマビシ

◆柱島群島にも多様な植物が分布しています
なかでも注目すべき植物をご紹介します！



ハマビシ〈ハマビシ科〉

※イメージ写真



果皮

温暖な海岸の砂浜に生える一年生草本です。茎は分枝して地面に伏せ夏に黄色い小花をつけます。果皮は堅くとげがありビーチサンダルはおろかゴム底の靴の裏にも容易に突き刺さるほどの堅さです。以前は戦艦陸奥英霊之墓（浦庄の浜）付近に多く分布していたようですが、今はほとんど見られなくなったようです。

【たいへん珍しい植物】ヤマトアオダモ・サカキカスラ・キジョラン



ヤマトアオダモ〈モクセイ科〉

●枝を水に浸けると水が青くなり樹高は15～25mになります。若枝には淡褐色の縮れ毛があり後に脱落します。成木になるまではかなりの時間を要します。木材は粘り強く木製バットやスキー板などにも利用されています。
柱島に生育。花期は4～5月



サカキカスラ〈キョウチクトウ科〉

●他の木や枝に巻き付く常緑のつる性の木で、葉がサカキに似ており小柱島全域に多く、淡黄色の花（花期5月中旬）にはなかなかお目にかかれぬ県内でも珍しい植物です。



南北「台湾・沖縄⇄北海道」数千
kmもの距離を旅するチョウ



キジョラン〈ガガイモ科〉

※イメージ写真

●つる性の多年草で「アサギマダラ」という美しいチョウの幼虫が食べる草として知られています。実がはじけると白毛を振り乱す鬼女のように見えることから「鬼女蘭」と和名になったといわれています。県内では比較的まれで小柱島の海岸沿いに多く自生し柱島にも生育。

(INET 植物図鑑引用)